

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
第85回経営協議会議事要録

日 時 令和2年3月19日（木）13:00～14:50
場 所 北陸先端科学技術大学院大学
石川キャンパス 国際交流会館1階 第1・第2会議室
東京サテライト 特別応接室 ※テレビ会議システムにて接続
出席者 浅野哲夫（議長）、寺野稔、永井由佳里、新田正樹、黒田壽二、川西俊吾、
相澤益男、岩澤康裕、岩野和生、久和進、澁谷進及び平澤冷の各委員
欠席者 丹康雄、加藤邦紘、及び谷本正憲の各委員
オブザーバー 三宅幹夫監事、細野昭雄学長特別参与、神田陽治学系長、上原隆平学系長、
村田英幸学系長、塚原俊文学系長及び山本一彦石川県企画振興部課長

議事に先立ち、議長から、事前に送付した令和元年11月21日開催の第83回経営協議会の議事要録（案）及び令和元年12月6日付け開催の第84回経営協議会（書面付議）の議事要録（案）について、資料1－1及び資料1－2に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

議 事

<審議事項>

1 令和2年度年度計画について

大学戦略・広報室長から、令和2年度年度計画について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、修正等の必要が生じた場合の対応については、学長に一任された。

2 令和2年度予算編成について

会計課長から、令和2年度予算編成について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

3 学内規則の一部改正

・ 学則の一部改正について

総務課長から、学則の一部改正について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

・ 会計規則等の一部改正について

会計課長から、会計規則等の一部改正について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4 役員の退職手当の取扱いについて

新田理事から、役員の退職手当の取扱いについて、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<報告事項>

1 令和元年度監事監査結果報告について

三宅監事から、令和元年度監事監査結果報告について、資料7に基づき報告があった。

2 令和元年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について

学長から、令和元年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について、資料8に基づき報告があった。

3 令和2年度運営費交付金予定額について

会計課長から、令和2年度運営費交付金予定額について、資料9に基づき報告があった。

4 令和2年4月入学入試状況について

教育支援課長から、令和2年4月入学入試状況について、資料10に基づき報告があった。

5 令和元年度「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告について

寺野理事から、令和元年度「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告について、資料11に基づき報告があった。

6 教員人事の将来構想（中間まとめ案）について

学長から、教員人事の将来構想（中間まとめ案）について、資料12に基づき報告があった。

7 最近の本学の活動状況と報道された本学記事について

大学戦略・広報室長から、最近の本学の活動状況と報道された本学記事について、資料13に基づき報告があった。

<意見交換>

1 カリキュラム改革の検討状況について

永井理事から、カリキュラム改革の検討状況について、資料14に基づき説明があった。

2 学長就任後6年間の総括について

学長から、学長就任後6年間の総括について説明があり、委員から意見が述べられた。

- ・浅野学長が達成された個々の業績は高く評価できる。おそらく、就任後はV字回復をするというイメージで、学生定員の充足をはじめとする様々なことに取り組まれたことと思うが、6年をかけてようやく回復基調に持ち込めたというところが本音ではないかと思う。そこで、浅野学長には、達成されたことを総括するとともに、6年間の学長経験を生かし、JAISTがどのような特徴を持つ大学院大学を目指すのかという方向性を示してほしい。そして、次期学長がそれを参考にし、さらに自分の味付けをしたビジョンを明確に示すことができれば、この大学がより良い方向に進んでいけるのではないかと考える。
- ・どのような組織にも言えるが、旧来の状況に戻す、あるいはそれ以上の状態にするというのは並大抵のことでは上手くいかない。それをデータの上でも示すことができたという意味で、すばらしい6年間であったと思う。このような状況を作ることができ、外部からも注目され、国立大学法人評価委員会による評価においても「特筆すべき進捗」との評価を得られた今の時期にこそ、優秀な教員のリクルートや一研究科としての教育カリキュラム改革に一層注力すべきである。また、就任期間中に、留学生比率、若手教員比率、外国人教員比率、女性教員比率等、様々なデータが向上しているが、単にデータの向上のためではなく、なぜそれをしてしなければならないかという本質的な意義を議論していくことにより、これまでの施策がさらに生きてくると思う。
- ・多くの大胆な方策に果敢に取り組まれ、苦労も多かったことと思うが、それが結果として表れており、すばらしい6年間であったと思う。この大学院大学の位置付けとして、ノーベル賞級の研究者を数多く輩出すると言うよりは、産業界や社会の中核を担っていく人材を輩出するということに向かうべきであろうと思う。言い換えれば、技術を使って新たな価値を創り出せる人材を育てるということが、この大学のあるべき姿になっていくのではないか。その意味において、浅野学長が重視された地域との連携は、とても価値のある取り組みであると考えている。教育カリキュラムの改革については、まだ内容が明確でないようにも見受けられるが、今後、大学のビジョンに合わせてプログラムが構成されているかということを深く議論されるとよいと思う。次期学長は、恵まれた研究環境や文化があるこの地で、どのような人材を輩出できるかという希望に溢れた絵を描いていることと思うが、浅野学長が様々なことにメリハリを持って取り組まれたことにより、その基盤作りがなされた6年間であったと思う。
- ・就任期間において様々な業績をあげられたが、特に学生の確保が進んだということは高く評価されるべきである。今後も、社会からの要請の高い分野の優秀な教員を招聘することにより、さらに学生を惹きつけ、北陸という地方にあっても、高いレベルの学生を数多く集められる大学院大学になってほしい。
- ・国力があっても外交力を持たない国ではどうしようもないし、企業に例えるならば、いくら良い商品・サービスを持っていても営業力がなければ認められない。同じように大学でも、大学力だけではなく外交力が必要であると考えているが、浅野学長は、外交力・社交力を

大事にされていて、そこに大学力が伴ったことで、この大きな成果に繋がったと感じた。

- ・前学長の任期の後半に、大学としての理念の見直しを行い、それまでのアカデミックな大学院大学を目指すというものから、社会に出て、産業界で活躍できる人材を育てるという方向性への転換を図った。浅野学長が取り組まれた産学連携活動への注力や、教育カリキュラムの改革等の様々な方策により、その理念が実現されつつあると考えている。今後も、良い方向に動き出している今の理念を踏襲されるのがよいと思う。大学のあり方として、教育と研究のバランスの問題が議論になるが、私は教育をベースにするのが本来の大学のあり方だと考える。その上で、研究能力に秀でた人が研究の面で力を発揮するというのが、大学の基本的な構造であろうと思う。海外の大学が明確に教育を重視している一方、日本の大学は研究を優先することが多い。この日本の特徴が様々な違いを生んでおり、良い面ばかりならばいいが、そうでないことも多い。J A I S Tにおいても、今はおそらく研究をベースに考えている教員が大半であろうと思う。研究にばかり目を向け、学生への教育は、単に自分がこれまでやってきた研究を伝達するだけ、という考えでは、大学の使命は果たせないということを認識すべきである。自身の研究上の経験を生かしながらも、何が学生の将来にとって重要なのかということを常に考えなければならない。もっと教育に興味を持ち、特色を生み出す努力をすることによって、学生が多く集まり、その学生が様々なアイデアを教員に還元してくれるという好循環を生む。ぜひ学生に好かれる教員になってほしい。
- ・学生定員を充足されたことは見事な業績であり、J A I S Tの存在が社会から認められたことの証であると思う。一研究科体制になり、浅野学長のご尽力で新しい芽が出てきたように思うが、幸い次期学長は、浅野学長を中心となって支えてこられた方なので、これをますますブラッシュアップし、J A I S Tが、外からさらに輝いて見える大学になることを期待している。
- ・私はこの2、3年ほどJ A I S Tを中から見ることができたが、それまで外から見ていた姿と、中から見る姿の間に、まだギャップを感じている。中にいて情報を得られれば、すばらしい大学であることがわかるが、外からは、それが十分に見えていないのではと感じる。浅野学長のキャッチコピーである「知的たくましさ」とは、「より幅広い経験と知に対する挑戦力」ということだが、今の社会は、知的好奇心や探求心に加え、自分の研究のベースをしっかりと持ちながらも、社会のニーズにも応えていけるバランス感覚を求めている。今後、知的たくましさを持った人材を数多く輩出し、そのことが社会にも認識され、正しく評価される状況になっていくことを期待している。

<その他>

1 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催については改めてお知らせする旨の説明があった。

資料

- 1－1 第83回経営協議会議事要録（案）
- 1－2 第84回経営協議会議事要録（案）
- 2 令和2年度年度計画について（案）
- 3 令和2年度当初予算（案）
- 4 学則の一部改正について（案）
- 5 会計規則等の一部改正について（案）
- 6 役員の退職手当の取扱いについて（案）
- 7 令和元年度監事監査結果報告書
- 8 令和元年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告書
- 9 令和2年度国立大学法人運営費交付金予定額
- 10 令和2年4月入学入試状況について
- 11 令和元年度第1回・第2回「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告
- 12 教員人事の将来構想（中間まとめ案）
- 13 最近の本学の活動状況と報道された本学記事
- 14 カリキュラム改革の検討状況について